

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と																						
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策																						
学力の育成	(全校レベル) (1) 規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> <th>評定</th> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td>(1) 生徒の授業満足度調査 80%以上</td> <td>(1) 生徒の授業満足度調査 (9月) 79.2% (満足・おおむね満足)</td> <td>B</td> <td rowspan="6">B (所見) おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業である」ということを、全校集会等で事あるごとに話をしてきた。その結果、昨年度と比較しても授業満足度が上昇した。また、授業態度も良くなってきており、実習にも積極的に取り組む姿勢が多く見られる。しかし、まだまだ取り組みの甘い生徒もあり、残念ながら十分とは言えない。また、漢字検定とマナトレにおいても、全校的な取り組みとして効果を上げているが、まだまだ生徒によって取り組みに差がある。特にマナトレは、1学年の合格率が極端に低かった。</td> </tr> <tr> <td>(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上</td> <td>(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位平均27.6時間</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>(3) 生徒の成績状況調査 年2回以上</td> <td>(3) 生徒の成績状況調査 年3回</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>(4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 80%以上</td> <td>(4) 漢字検定実施状況調査 8回 5級以上 57.1%</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級 70%以上</td> <td>(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 18回 8級以上合格 30.6%</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回以上 授業力向上職員研修会 1回以上</td> <td>(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 8回 (6・10・11・1・2月) 授業力向上職員研修会 1回(6月)</td> <td>B</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	(1) 生徒の授業満足度調査 80%以上	(1) 生徒の授業満足度調査 (9月) 79.2% (満足・おおむね満足)	B	B (所見) おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業である」ということを、全校集会等で事あるごとに話をしてきた。その結果、昨年度と比較しても授業満足度が上昇した。また、授業態度も良くなってきており、実習にも積極的に取り組む姿勢が多く見られる。しかし、まだまだ取り組みの甘い生徒もあり、残念ながら十分とは言えない。また、漢字検定とマナトレにおいても、全校的な取り組みとして効果を上げているが、まだまだ生徒によって取り組みに差がある。特にマナトレは、1学年の合格率が極端に低かった。	(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上	(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位平均27.6時間	B	(3) 生徒の成績状況調査 年2回以上	(3) 生徒の成績状況調査 年3回	B	(4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 80%以上	(4) 漢字検定実施状況調査 8回 5級以上 57.1%	C	(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級 70%以上	(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 18回 8級以上合格 30.6%	C	(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回以上 授業力向上職員研修会 1回以上	(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 8回 (6・10・11・1・2月) 授業力向上職員研修会 1回(6月)	B	<p>○生徒が勉強することが面白くなったと意欲的に取り組んでいることは素晴らしいことである。</p> <p>○授業の満足度が高いことは生徒が真剣に取り組んでいることでもある。しかし、その内容やレベルが問題となる。</p> <p>○生徒の満足度調査でも高い数値が示されている。子どもたちの意欲を引き出す授業が行われた成果だと思う。</p> <p>○マナトレ学習は基礎学力の向上に有効であり、今後も進めてほしい。</p> <p>○職員研修は授業力の向上に大きな役割があるので継続してもらいたい。</p>	<p>○基礎学力については、まだまだ十分ではない。これからも計画的、継続的な指導が必要である。特に、個別指導の効果は大きく、教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。</p> <p>○校内漢字検定、マナトレについては、停滞している生徒にもっと焦点を当て、指導していきたい。</p> <p>○授業力向上に向け、研究授業や職員研修会だけに頼ることなく、普段の中で情報の共有、伝達等が行えるような工夫をしていきたい。</p>
	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																							
(1) 生徒の授業満足度調査 80%以上	(1) 生徒の授業満足度調査 (9月) 79.2% (満足・おおむね満足)	B	B (所見) おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業である」ということを、全校集会等で事あるごとに話をしてきた。その結果、昨年度と比較しても授業満足度が上昇した。また、授業態度も良くなってきており、実習にも積極的に取り組む姿勢が多く見られる。しかし、まだまだ取り組みの甘い生徒もあり、残念ながら十分とは言えない。また、漢字検定とマナトレにおいても、全校的な取り組みとして効果を上げているが、まだまだ生徒によって取り組みに差がある。特にマナトレは、1学年の合格率が極端に低かった。																								
(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上	(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位平均27.6時間	B																									
(3) 生徒の成績状況調査 年2回以上	(3) 生徒の成績状況調査 年3回	B																									
(4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 80%以上	(4) 漢字検定実施状況調査 8回 5級以上 57.1%	C																									
(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級 70%以上	(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 18回 8級以上合格 30.6%	C																									
(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回以上 授業力向上職員研修会 1回以上	(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 8回 (6・10・11・1・2月) 授業力向上職員研修会 1回(6月)	B																									
(下位組織レベル) (1) 基礎学力の向上を行う (2) 教科指導の充実とレベルアップを行う	<table border="1"> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>(1)-1 成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 (1)-2 追試・補講を実施して強力に指導を行う。 (2) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 (3) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 (4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 (5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 (6)-1 年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 (6)-2 教職員研修計画を作成し、指導力の向上を図る。</td> <td>(1)-1 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 (1)-2 追考査、補講は計画的に実施した。 (2) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 (3) 5, 9, 1月に実力テストを実施した。 (4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年8回実施) (5) 各ホームルームに3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、18回実施した。 (6)-1 評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 (6)-2 6月に授業力向上に関する職員研修会を実施した。また、のべ8回の研究授業を行った。</td> </tr> </table>	活動計画	活動計画の実施状況	(1)-1 成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 (1)-2 追試・補講を実施して強力に指導を行う。 (2) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 (3) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 (4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 (5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 (6)-1 年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 (6)-2 教職員研修計画を作成し、指導力の向上を図る。	(1)-1 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 (1)-2 追考査、補講は計画的に実施した。 (2) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 (3) 5, 9, 1月に実力テストを実施した。 (4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年8回実施) (5) 各ホームルームに3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、18回実施した。 (6)-1 評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 (6)-2 6月に授業力向上に関する職員研修会を実施した。また、のべ8回の研究授業を行った。																						
活動計画	活動計画の実施状況																										
(1)-1 成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 (1)-2 追試・補講を実施して強力に指導を行う。 (2) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 (3) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 (4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 (5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 (6)-1 年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 (6)-2 教職員研修計画を作成し、指導力の向上を図る。	(1)-1 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 (1)-2 追考査、補講は計画的に実施した。 (2) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 (3) 5, 9, 1月に実力テストを実施した。 (4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年8回実施) (5) 各ホームルームに3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、18回実施した。 (6)-1 評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 (6)-2 6月に授業力向上に関する職員研修会を実施した。また、のべ8回の研究授業を行った。																										

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
学力の育成	(全校レベル) (1)読書力の向上を図る。 (下位組織レベル) (1)図書委員をはじめ、生徒主体の読書啓発活動に努める。 (2)読書環境の充実に努める。 (3)「読書の日」を設け意識の向上を図る。	評価指標 (1)校内図書館の読書冊数の増加率 7%以上 (2)図書委員の読書・図書館利用の啓発運動を実施 10回以上 (3)蔵書数の増加率 5%以上 (4)図書室通信の発行 年7回以上 (5)「読書の日」の実施 年10回 (6)購入希望図書アンケートの実施 年8回	評価指標の達成度 (1)生徒数の減少、啓発活動不足により昨年度を下回った。 -21% (2)校内放送や読書の実施により10回以上実施できた。 (3)廃棄処分により大幅に減少した。 -15% (4)毎月発行できた。 (5)年間6回にとどまった。 (6)年間2回にとどまった。	評定 C A C A B C 総合評価 B (所見) あらゆる点を考慮し、幅の広いジャンルの本を購入した。本年度購入した本は書壇やマスコミで話題になるなど、充実した内容であった。文芸書を読む生徒もいるが、全く読まない生徒もいて二分化している。 啓発活動の不足により、図書室利用者・貸出数は大幅に減少したが、図書委員や読書好きの生徒の活動の機会が増えた。特に生徒がおすすめの本を紹介する機会を設けたのは、他の生徒の活動につながると思う。今後は生徒の活動を中心とした啓発で、「サロン」的な図書館づくりを目指していきたい。	○月ごとに季節に合わせた特集コーナーを設けることで生徒の心に潤いを持たせる。 ○校内放送や読書の日を通じた啓発活動が大変よくできている。 ○読書離れが進む現在、図書室に足を運ばせることは難しいことであると思うが、様々な工夫を凝らしてもらいたい。 ○読書は文章力、読解力等をつけさせる大切なものであり、将来生徒の語彙を高める基礎となるため、いろいろな機会を活用して推進させて欲しいものである。	○生徒数の減少、低年齢からの読書離れが進んでいる中で、いかに読書の習慣をつけていくかが大きな課題である。図書委員の活動を活発にし、図書館に足を運ぶ機会を増やす。図書館の展示や企画を図書委員を使って行う。 ○時事や季節に応じた企画展を行う。 ○授業で図書室を利用してもらえるように、学習内容に関連した図書の充実に努める。
		活動計画 (1)読書の日を毎月1回設定し、教職員や生徒に本を選定してもらおう。 (2)図書委員に役割をもたせ、図書館の広報活動や、新刊図書の紹介を行う。また、生徒の本の紹介コーナーなどをつくる。 (3)生徒のニーズにあった図書を購入し蔵書の充実に努める。 (4)図書だよりを通して、新刊図書など最新の情報を提供する (5)推薦図書コーナーの充実に努める。 (6)購入希望図書アンケートをもとに購入した本のコーナーを設置する。	活動計画の実施状況 (1)「読書の日」の実施は少なかったが、本の選定を90%してもらった。 (2)図書員に担当コーナーを持たせ、活動させた。(新聞記事紹介、おすすめ図書紹介、校内放送など)。 (3)司書と連携のもと、本校の実態や最近の話題の本を中心に購入。新刊図書は図書館前に表紙のコピーで宣伝している。 (4)月ごとに季節にあわせた特集コーナーを設けた。 (5)アンケートが十分に実施できなかった。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1)基本的な生活習慣の確立を図る。 (2)生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。 (下位組織レベル) (1)保護者との連携を密にし、相互理解の上で指導の充実を図る。 (2)遅刻・欠席指導の徹底を図る。 (3)身だしなみ指導の徹底を図る。 (4)登下校指導を行う。 (5)交通安全指導の徹底を図る。	評価指標 (1)家庭訪問実施回数 50回未満 (2)遅刻者率 0.5% (3)身だしなみ指導者率 10% (4)車両定期点検の実施回数 5回以上 (5)交通事故加害者数 0人 (6)いじめ問題件数 0件	評価指標の達成度 (1)家庭への連絡実施回数 24回 (2)遅刻者率 1.5% (3)身だしなみ指導者率 5.1% (4)車両定期点検の実施回数 5回 (5)交通事故加害者数 0人 (6)いじめ問題件数 0件	評定 総合評価 B (所見) 本年は、全体的に遅刻者が多く、高校生(社会人予備軍)としての自覚が足りないように思われ、2年生も特定の生徒が多く遅刻をしている。また、欠席数も多く自分の進路に対して悩みや、迷いから欠席数が増えているように思われる。 身だしなみ指導では同じ生徒が繰り返し指導を受けることが多いが、減少傾向にある。交通安全指導、登下校指導等交通安全についての知識やマナーの更なる向上が望まれる。 いじめに関しては、言葉のすれ違いなどで、友人関係が上手く作れない場面や、表面上での関係等がアンケート調査で見られるが、大きな問題行動等は認められなかった。	学校関係者の意見 ○大きな事故や問題も起こっていないことに対して敬意を表したい。 ○交通事故の撲滅もできており、遅刻者も少ないと思える程度である。また、いじめ対策もできていると思う。 ○他校にはない保護者との連携がうまくいっているのではないか。 ○身だしなみは社会に出てからも信頼と大きく関わるために、生徒の時から正しておく必要がある。 ○いじめは人間の最も卑劣な行為であることを理解させ、助け合い支え合える仲間作りを進める指導をお願いした。	今後の改善方策 ○高校は社会に出るための準備環境であり、基本的な生活習慣を早急に確立させるために、個性を把握し、学校・家庭両面からのサポートが必要である。そのために年度当初に家庭訪問に行き、家庭状況を把握し、保護者との連携が密になるようにしなければならない。 2・3年生に対しても進路や学校生活で気になる情報があれば家庭訪問を実施する。また、遅刻・欠席・身だしなみ指導者の現象に結びつくのではないかと思われる。 ○交通安全については警察と連携し、指導を充実させなければならない。 ○いじめ問題の早期発見・早期対策に対する行動や改善策を教師全員でより深く考えたい。
		活動計画 (1)修学困難生への家庭訪問を実施する。 (2)-1遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。 (2)-2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し、多い者への改善指導を徹底する。 (3)毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底する。 (4)車両登録をさせ、学期初めと学期終わりに安全点検と学期毎に集会を行い交通事故を未然に防ぐ。 (5)-1免有者に対して視聴覚教材を用いた指導を行う。 (5)-2登下校指導計画を作成し指導を行う。 (あいさつ、遅刻、服装) (5)-3教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行う。 (6)-1いじめ問題の早期発見を行う。(アンケート調査の実施) (6)-2いじめ問題の早期解決を行う。(事後指導の確認)	活動計画の実施状況 (1)定期の家庭訪問以外に、学校生活や身だしなみ指導等での家庭訪問をし、家庭との連携を深めることができた。 (2)遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。 (3)毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施した。授業前・授業後に身だしなみを整える習慣が身についた。 (4)車両登録・安全点検を学期初めと学期終わりに実施できた。学期毎に全校・学年集会で交通安全に関する注意を行った。 (5)-1原付の免有者に対し、視聴覚教材を用いた安全運転啓発ができなかった。 (5)-2指導計画により指導を行いあいさつの励行及び身だしなみ指導ができた。 (5)-3通学路の危険箇所確認と交通マナーの向上が図れた。 (6)-1毎学期アンケート調査を実施した。 (6)-2アンケート調査の結果を報告し、各担任等を中心に問題解決を行った。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
生活力 (ソーシャルスキル)の育成	(全校レベル) (1)教育相談活動の充実と生徒支援に努める (2)生徒一人一人を理解し、個々の生徒のニーズに応じた支援を進める (下位組織レベル) (1)教育相談体制(特別支援を含む)の充実を図る。 (2)生徒理解を進めるために各種検査を効果的に実施する。 (3)特別支援教育職員研修の充実を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 B (所見) 教育相談では家庭の問題や学校生活の問題を誰にもいわずに抱えている生徒が多数おり、その悩みは大人が考えるより重い場合も多い。よく傾聴しなければ、聞き流されたととらえられることも多いので、学校全体が生徒の悩みに真剣に向き合い的確なアドバイスができるようになっていかなければならない。特別支援教育では学び方やコミュニケーションの取り方に苦勞する生徒を指導して、進路決定につなげていくという目的は達成できつつあると思う。特に就労支援センタはくあいの連携がきちんとできていることが非常に心強い。	○生徒一人一人の個性を引き出すことで学級満足度の高さにも繋がっている。 ○生徒の悩みを聞き、その解決を支援することは、生徒の生き方も大きく左右するため、十分な時間を確保してほしいものである。 ○教師と生徒の信頼関係の構築は、生徒に大きな自信を与える力となるので大切にしていきたい。	○教育相談を行える雰囲気を整えた部屋を確保する必要がある。 ○校内研修では講師を招いて最新の特別支援教育について学ぶというものも企画したい。 ○本校には様々な家庭環境や事情を抱えた生徒がたくさん在籍している。また、健康上の問題を抱える生徒も在籍している。その生徒たちのために個人情報等の管理に配慮しながら、実際の生徒への対応について共通理解を図る機会をもたなければならない。	
		(1)教育相談体制の充実 教育相談日を設けカウンセリングを行う。 30日(回)	(1)教育相談に対する教員の意識が高く、個別に担任、学年で対応できた。教育相談課が教育相談日を設けたが、日々の相談内容の把握で対応できた。				B
		(2)各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査QU)による生徒理解(各学年)	(2)教研式高校知能検査は1年生の学年団に、学級満足度調査QUは各学級担任に示し、生徒理解に役立った。				B
		(3)職員研修における職員の満足度アンケートで2/3以上が満足	(3)個別に口頭で回答していただいた。担当としてはあまり満足いくものではなかった。				B
活動計画	活動計画の実施状況						
	(1)教育相談日を設けカウンセリングを行う。次のことに配慮する。 ①教職員への親しみやすさ ②教職員との信頼関係 ③教職員との相談の満足	(1)教育相談日を火曜日としたが、決まった日にカウンセリングを行うより、臨機応変にこの相談に対応することが多かった。親しみやすさや信頼関係については醸成できてきたと感じている。					
	(2)-1 各種検査を実施し生徒の困難さに気づき、問題を把握し、問題解決に向けて取り組む。	(2)-1 学級満足度調査QUは生徒個々の生活スタイルやコミュニケーションの取り方を把握するのに大変参考になった。					
	(2)-2 それぞれの生徒の能力を把握し、基礎学力向上に向けた取組を行う。	(2)-2 毎週木曜日に実施している学び直しトレーニングで全教員が関わることで個人個人の能力の把握と指導に大きな役割を果たした。					
	(3)職員研修を1学期・2学期に実施する。	(3)1学期末と2学期末に職員研修を実施したが内容・実施方法等、改善しなければならない。					

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
人権意識の高揚	(全校レベル) (1) 道徳教育と関連させ人権尊重の精神を基盤とした教育活動に努める。 (2) 日々の生活や研修等を通じ、教職員自身の人権意識の向上に努める。 (下位組織レベル) (1) 人権教育ホームルーム活動の充実を図る。 (2) 「学校人権の日」の取組の充実を図る。 (3) 人権教育教職員研修の充実を図る。 (4) 道徳教育ホームルーム活動の充実を図る。 (5) いじめ防止に等に関する具体的な取組を行う。	評価指標 (1) 「人権学習ホームルーム活動」実施回数5回・生徒の充実度 90%以上。 (2) 「学校人権の日」における生徒の充実度 90%以上。 (3) 人権教育教職員研修・年3回以上実施。校外人権教育研修等に全教職員、1回以上参加。 (4) 道徳教育ホームルーム活動を年間2回実施。各学期、道徳教育週間5日間実施。 (5) 学校生活アンケート毎学期実施・生徒の満足度100%。	評価指標の達成度 (1) 「人権学習ホームルーム活動」実施回数5回・生徒の充実度 76%。 (2) 「学校人権の日」における生徒の充実度 68%。 (3) 人権教育教職員研修・年3回実施。校外人権教育研修等に全教職員が参加することはできなかった。 (4) 道徳教育ホームルーム活動を年間2回実施。各学期、道徳教育週間5日間実施できた。 (5) 学校生活アンケート毎学期実施できず。生徒の満足度73%。	総合評価 B ○多くの生徒は学校生活に満足しているものの、友人などとの人間関係の構築などで悩んでいる生徒も少なくない。生徒の些細な変化に気づき、すばやく対応していくことが大切である。 ○ホームルーム活動での人権の勉強にはまじめに聞いて考えているようであるが、主体的には言いがたい。また人権問題を身近な自分自身のこととして考えられていない。授業でのアプローチや授業形態の工夫が必要である。 ○いじめ問題、特にメールやSNS等での人権侵害について考えさせる機会をふやさなければならないと考える。 ○教職員の研修会の参加率が低い。学校行事や実習等の都合もあるが、参加を促す。	○校外人権教育研修会には全教職員が参加すべきだと考える。特定の教員に偏るべきではない。 ○道徳教育ホームルームや道徳週間などしっかりとした取組ができています。 ○生徒一人一人が認め合っていない学校づくりができています。 ○道徳を守り、他人の人権を尊重することは、人間として守らなければならない基本であるため、機会ある度に指導を徹底してもらいたい。	○ホームルーム活動の年間計画の内容見直しをする。現行の計画は人権に関するホームルーム年3回、道徳に関するホームルーム年2回あるが、人権に関する4回に変更を考えている。 ○教職員研修を年3回にし、そのうち1回は講師を呼んで、専門的な知識を伝授してもらう機会とする。 ○生徒の主体的な活動を増やす。
		活動計画 (1) 人権教育課とホームルーム担任との連携で教材を作成し、ホームルーム活動の充実と推進を図る。 (2) 人権委員会(生徒)が主体的に「学校人権の日」を運営する。当日の啓発の中心となるよう人権委員の事前指導を行う。毎回ふり返しシートを実施する。 (3) 講義形式による研修のほかに、ワークショップ形式や視聴覚教材等も利用した研修を行い充実を図る。 (4) 道徳教育の視点を全教職員に提示し道徳教育週間を実施する。 (5) いじめ未然防止・早期発見への取組を充実させるとともに、各学年・各課との連携により組織的な対応を図る。	活動計画の実施状況 (1) 本年度も人権教育課の年間計画をもとに学年単位で教材や指導案の作成を行ったが、作成の段階においては学年にまかせることが多く、人権教育課の指導や協力のもとというものが少なかった。 (2) 人権委員会の活動自体が少なく、自主的に活動できたとはいえない。 (3) 研修2回のうち1回目は講義形式、2回目はパワーポイントを用い、グループワークなども取り入れ、主体的に取り組んでもらえるような工夫した。 (4) 各行事などの際に、道徳教育の視点からの目的を考え実施してもらえた。しかし、道徳教育週間の活動が活発にできたとは言えない。 (5) 学年・教職員間の連携により共通理解のもとに対応できている。			

備考 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と																	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策																	
生活力の育成	(全校レベル) (1)特別教育活動の充実を図る	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> <th>評定</th> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td>(1)ホームルーム活動満足度 85%以上</td> <td>(1)ホームルーム活動満足度 82.0%</td> <td>B</td> <td rowspan="4">B</td> </tr> <tr> <td>(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 90%以上</td> <td>(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 86.0%</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上</td> <td>(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 5.4回</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>(4)部活動の加入状況 80%以上</td> <td>(4)部活動の加入状況 75.7%以上</td> <td>B</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	(1)ホームルーム活動満足度 85%以上	(1)ホームルーム活動満足度 82.0%	B	B	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 90%以上	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 86.0%	B	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 5.4回	B	(4)部活動の加入状況 80%以上	(4)部活動の加入状況 75.7%以上	B	<p>概ね目標を達成できた。体育祭や楓祭などの学校行事では生徒会与教職員が連携して活動した結果、一定の成果を収めた。本年度は球技大会を2日間とし、1日目に負けてしまっても、2日目にも試合に参加できるように改善したところ、生徒の満足度は87.2%と高かった。前日祭は、今年も3年生を中心に実行委員会が組織された。様々な企画を立案し、多数の生徒が参加することができた。生徒会活動全般において、教師の適切な指導の下、生徒の自発的・自治的な活動が展開できている。</p> <p>各種専門委員会活動の教員評価は、5段階評価で「3ふつう」が多い。「やや不十分」と答える委員会もあり、運営方法を考える必要がある。</p> <p>部活動入部率は掛け持ちも含む。評価指標には達することができなかったが、主な活動実績からもわかるように、熱心に継続した活動を続け、県下でも顕著な成績を収めることができている。</p>	<p>○楓祭を見ていて、生徒の人数が減っているにもかかわらずよくやっていると感じた。社会に出ても頑張ってくれるのではないかと期待が持てる。</p> <p>○都会からの修学旅行生が民泊の教育旅行で三好市に来ている。学校でも目的を持たせた教育旅行を取り入れてみてはどうか。</p> <p>○楓祭は地域に開かれた生徒主体の行事で素晴らしい。</p> <p>○体育祭や楓祭でも、生徒たちと先生方の連携作業が速やかに行われていた。</p> <p>○球技大会でも改善を図ることで生徒たちの満足度が高くなっている。</p>	<p>○生徒会執行部は活発に活動できているが、各種専門委員会の活動には開きがある。生徒数減少と委員会の実態に伴い、見直す必要があるかもしれない。</p> <p>○部活動の加入率は低くはないが、体育部に所属する割合は低く、団体競技の活動が困難になってきている。また入部はしているものの、積極的に活動している生徒が減少している。弓道部は活動したくても、昨年度途中より弓道場が無くなり、活動しづらい状況にある。環境を整える必要がある。</p> <p>○学校行事については、学校や地域及び生徒の実態に応じて、各種類ごとに、行事及びその内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなど精選して実施していく。</p>
	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																		
(1)ホームルーム活動満足度 85%以上	(1)ホームルーム活動満足度 82.0%	B	B																			
(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 90%以上	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 86.0%	B																				
(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 5.4回	B																				
(4)部活動の加入状況 80%以上	(4)部活動の加入状況 75.7%以上	B																				
(下位組織レベル) (1)ホームルーム活動の活発化を図る (2)各種専門委員会活動の推進を図る (3)生徒会活動・部活動の活性化を図る	<table border="1"> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>(1)よりよい人間関係づくりに努める。</td> <td>(1)年度当初にホームルーム活動計画を行い、1年48時間、2年45時間、3年49時間、計画に沿って行うことができた(2/17現在)。学年合同での活動もあり、親睦を図ったり、進路情報を共有したりする時間に活用できた。ホームルーム活動の満足度は、学校行事での取組・ホームルーム活動(火曜日1時間目)での取組の自己評価結果である。</td> </tr> <tr> <td>(2)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。 (2)-2前日祭実行委員会の活動の充実に努める。</td> <td>(2)生徒会執行部は各行事の計画・準備・運営にあたり、意欲的に活動した。前日祭実行委員ともよく協力し、前日祭を成功させることができた。</td> </tr> <tr> <td>(3)各種専門委員会の活動の充実に努める。</td> <td>(3)各種専門委員会の実施回数は年々増加している。</td> </tr> <tr> <td>(4)部活動の充実に取り組む。</td> <td>(4)部活動の入部率(75.7%) ○情報処理部(四国ワフ杯競技会第2位、全国ワフ杯競技会団体・個人佳良賞、全国情報処理競技会個人出場) ○会計研究部(四国競技会出場) ○レスリング部(インターハイ出場)</td> </tr> </table>	活動計画	活動計画の実施状況	(1)よりよい人間関係づくりに努める。	(1)年度当初にホームルーム活動計画を行い、1年48時間、2年45時間、3年49時間、計画に沿って行うことができた(2/17現在)。学年合同での活動もあり、親睦を図ったり、進路情報を共有したりする時間に活用できた。ホームルーム活動の満足度は、学校行事での取組・ホームルーム活動(火曜日1時間目)での取組の自己評価結果である。	(2)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。 (2)-2前日祭実行委員会の活動の充実に努める。	(2)生徒会執行部は各行事の計画・準備・運営にあたり、意欲的に活動した。前日祭実行委員ともよく協力し、前日祭を成功させることができた。	(3)各種専門委員会の活動の充実に努める。	(3)各種専門委員会の実施回数は年々増加している。	(4)部活動の充実に取り組む。	(4)部活動の入部率(75.7%) ○情報処理部(四国ワフ杯競技会第2位、全国ワフ杯競技会団体・個人佳良賞、全国情報処理競技会個人出場) ○会計研究部(四国競技会出場) ○レスリング部(インターハイ出場)											
活動計画	活動計画の実施状況																					
(1)よりよい人間関係づくりに努める。	(1)年度当初にホームルーム活動計画を行い、1年48時間、2年45時間、3年49時間、計画に沿って行うことができた(2/17現在)。学年合同での活動もあり、親睦を図ったり、進路情報を共有したりする時間に活用できた。ホームルーム活動の満足度は、学校行事での取組・ホームルーム活動(火曜日1時間目)での取組の自己評価結果である。																					
(2)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。 (2)-2前日祭実行委員会の活動の充実に努める。	(2)生徒会執行部は各行事の計画・準備・運営にあたり、意欲的に活動した。前日祭実行委員ともよく協力し、前日祭を成功させることができた。																					
(3)各種専門委員会の活動の充実に努める。	(3)各種専門委員会の実施回数は年々増加している。																					
(4)部活動の充実に取り組む。	(4)部活動の入部率(75.7%) ○情報処理部(四国ワフ杯競技会第2位、全国ワフ杯競技会団体・個人佳良賞、全国情報処理競技会個人出場) ○会計研究部(四国競技会出場) ○レスリング部(インターハイ出場)																					

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1) 環境教育の推進を図るために、三好高校エコスクールの推進と新学校版環境ISOの推進を実践する。 (2) 学校防災教育の推進を図るとともに、地域防災との連携を図る。 (下位組織レベル) (1) 校内外の美化活動を推進する。 (2) 省エネルギー・リサイクル運動を推進する。 (3) 防災学習の充実 (4) 防災訓練の充実 (5) 教職員生徒の防災意識向上及び防災リーダー育成を行う。	評価指標 1) 新学校版環境ISOの総合評価レベル1.5以上。 ①美化活動・エコ活動の達成度 90% ②節電昨年度比 10%減少 廃油の公用車等への利用 100% 2) 学校防災の実践活動における実施時数 6時間以上 ①HRにおける防災・救急救命学習時間の実施 100% ②防災避難訓練実施 校内1回、地域との連携活動1回以上	評価指標の達成度 1) ISO総合評価1.5 ①美化活動・エコ活動90%以上実施 ②節電昨年度比+1.04% 廃油の利用 100% 2) 学校防災の実践活動6時間 ①HRにおける防災・救命学習2時間実施 ②防災訓練を校内で2回、地域との連携2回実施	評定 B A (所見) 新学校版環境ISOの基本理念に基づき、三好高校エコスクールの実践に努めた。本年度は夏の高温により電気の使用量が増え、節電については目標を達成できなかったが、熱中症の予防には繋がっていた。学校防災教育の推進を進め、防災学習の充実について実践することで防災意識を高め、高校生防災士の育成に繋ぐことができた。三好市役所の協力もあり、起震車の体験や防災研修の参加など徐々に防災活動は活発化されている。	学校関係者の意見 ○地域との連携は今後ますます重要になってくる。地域の力、人の力を活用していけば良い。 ○校内だけでなく箸蔵駅での清掃活動とを実施したり、学校での防災活動も適切に行われている。 ○校舎内外を見て、環境美化に努めていることがよく分かる。 ○災害はいつ何時やってくるか分からないので、防災学習の大切さを理解させ、素早く行動できる生徒を育ててほしい。	今後の改善方策 ○校内の掲示方法や、啓発について工夫する。 ○日程の調整や、生徒への連絡を密に行う。 ○職員・生徒に活動の状況を常時報告できるようにする。 ○最新の情報を伝え、防災教育の意義を伝える。 ○年度当初に地域の連携機関に連絡し、日程等をつめて実践できるようにする。
		活動計画 1) ①-1校内外の清掃美化実践をする。 ①-2施設設備の補修等即対応する。 ①-3ゴミの分別100%を目指す。 ②-1エコキャップ・廃食油の回収と活用を実践する ②-2毎月の電気使用量についてデータを配布する。 ②-3こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。 2) ①-1防災学習をして意識を高める。 ①-2救急救命の適切な指導をする。 ②-1有事の際に対応できる防災避難訓練を計画。 ②-2災害発生時の生徒・職員の生命・身体の安全を確保を目的とした防災研修を実施する。 ②-3地域との連携を図り、合同訓練の実施を計画・実践する。	活動計画の実施状況 1) ①箸蔵駅の清掃活動や校内のゴミ収集を毎月実施し、清掃美化を実践できた。校内の施設設備について、破損箇所等について即実な対応ができた。ゴミの分別について清掃時に確認し、徹底できた。 ②エコキャップの回収活動を続け、年間で80kg回収できた。電気使用量データを記録し、昨年度との比較ができ職員会で改善をお願いした。 2) ①防災学習を2回、救急救命指導を1回実施できた。 ②避難訓練を2回、地震避難訓練を1回、実施できた。地域の防災フェスタへ5名の高校生防災士が参加し、消防署の指導のもと指導員として指導した。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1)生徒一人一人が健康で安全な学校生活をおくる保健厚生への取組の充実を図る。 (下位組織レベル) (1)個々の健康管理を支援する。 (2)健康教育の充実に努める。 (3)性に関する指導を推進する。	評価指標 (1)保健室利用状況 前年度以下 (2)保健関係ホームルーム活動 各学年・年2回以上 (3)保健だよりの発行 年10回 (4)①健康状態の把握 80%以上 ②疾病やけがの手当等の理解度 80%以上 (5)性に関する指導の理解度 80%以上 (6)救命救急法等の研修実施 年1回以上	評価指標の達成度 保健室利用件数258件(前年度212件) 保健関係ホームルーム活動 各学年2回実施(全学年対象講演会1回含む) 平成29年3月までに計10回発行 ①生徒アンケート結果 83% ②生徒アンケート結果 94% 生徒アンケートの結果 96% 教職員対象の救命講習を夏休み前に1回実施。	総合評価 B (所見) 保健室利用状況は前年度より増加した。増加の理由としては、ケガでの利用が昨年度よりも多かったことが挙げられる。ケガの種類としては、突き指、捻挫、それらに伴う骨折等が多かった。また、過換気症候群等の持病を持つ生徒もおり、その対応による利用数の増加もみられた。保健学習・保健教育では、各学年で養護教諭が指導者となり、保健関係のホームルーム活動を実施できた。普段、保健室にあまり来室しない生徒の様子も見ることができ、よい指導の機会となったと思う。また、実施後の生徒の感想でも、自分の健康について見直していきたいという声が多かった。救命講習では、地元の消防署との連携を図ることで、常に正確で最新の知識と技術を得ることができている。	○保健便りの発行や保健関連のホームルーム活動を行うことでケガや病気の予防に役立っていると思う。 ○保健室の来訪者が多いのは、身体だけでなく心の悩みの相談にも使われているからではないか。 ○保健室での教育相談がこれからも大切になってくると思うので、十分な考慮をお願いしたい。	○ケガを含む小さな事故の増加は大きな事故の発生へと繋がる。ケガでの保健室利用者の増加への対応は、学校安全上、取り組むべき最も重要な課題である。保健室では、来室者に対し、自分での応急処置の方法や悪化を防ぐための自宅での療養法を指導したり、事故の原因や再発防止のための方法を一緒に考えるなどして、生徒の危機管理能力の向上に努めていきたい。 また、体育科教員、実習担当教員、部活動顧問等とは、生徒の状態等について密に情報交換を行い、安全に生徒も教員も活動できるように努めていきたい。 救命講習ではAEDの使い方だけではなく、外傷への対応などを取り入れ、誰もがどのような場面でも迅速な対応ができるようにしていきたい。 ○保健学習。保健教育では、今後も生徒の実態に合わせたテーマを設定し、知識を得るだけでなく、行動に移せる実践力を養えるような取組を行っていきたい。
		活動計画 (1)生徒の実態に応じた保健指導を行うとともに、保健室の利用について指導を行う。 (2)健康教育ホームルーム活動、性に関するホームルーム活動を計画的に実施する。 (3)学校ホームページや生徒への配布物を通して、健康に関する情報発信を行う。 (4)生徒の健康課題や保健室の実態を保健指導に生かし、生活の改善を図る。 (5)各学年において系統的な性に関する指導を実施するため、年間計画を策定し、関連する各教科と連携を図る。 (6)救命救急への適切な指導を行う。 (1)~(6)学校保健・安全計画を作成し、計画的な指導を行う。	活動計画の実施状況 (1)教職員へ各学期末には、保健室利用状況のまとめを周知し、共通理解を図っている。また、生徒来室時には、手当の方法や自宅での健康管理についての指導を行った。 (2)ホームルーム活動では、それぞれの学年の実態に応じたテーマを決め、実施した。今年度は生活習慣の見直しを大きなテーマとた。また、全学年を対象とした性教育講演会を1回開催昨年度に引き続き開催した。 (3)保健だよりは、計10回発行し、基本的に毎月1回の発行とした。今年度は感染症の予防について詳しく取り上げるなど、学校や生徒の現状に合わせたものになるよう工夫した。 (4)学校保健委員会を開催し、生徒の健康状況や感染症の予防について教職員、学校医、保護者を交えて協議することができ、改善へ向けての手立てを考慮することができた。 (5)学年や各教科と連携を図り、性に関する年間指導計画を策定した。 (6)教職員対象として救命講習を夏休み前に1回開催した。消防署員を講師として招き、正確かつ最新の知識と技術を確認する場とした。 (1)~(6)年度当初に学校保健計画と学校安全計画を策定し、全教職員で共通理解を図るとともに、計画的かつ継続的な指導を行っている。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
キャリア教育	(全校レベル) (1)一人一人の生徒の能力・適性を生かした進路の実現のための進路指導・キャリア教育を推進する。 (下位組織レベル) (1)生徒の進路希望の把握と進路意識の高揚に努める。 (2)進路情報の提供を丁寧に継続的に行う。 (3)事業所・進学先・ハローワーク・市役所等との連携に努める。 (4)生徒の学力の実態把握に努め、学力向上を推進する。	評価指標 (1)3年生進路内定率 100% (2)2年生終了時の進路希望未定者 0 (3)進路希望調査 年間2回以上 (4)面接回数 一人あたり3回以上 (5)進路ホームルーム活動 年間3回 (6)進路説明会等の満足度 80%以上 (7)事業所訪問 30社以上 (8)進路補習への参加率 80%以上 (9)マナトレ実施状況 ①実施回数 20回以上 ②7級合格率 70%以上 (10)効果的な進路講演会の実施 3年生3回(4, 6, 12月)	評価指標の達成度 (1)3年生進路内定率 96% (2)2年生終了時の進路希望未定者0 (3)進路希望調査 年間2回 (4)面接回数 一人あたり3回以上 (5)進路ホームルーム活動 年間3回 (6)進路説明会等の満足度 86% (7)事業所訪問 53社 (8)進路補習への参加率 93% (9)マナトレ実施状況 ①実施回数 18回 ②7級合格率 14% (10)効果的な進路講演会の実施 3年生3回(4, 6, 8月)	評定 総合評価 B 本年の3年生も難関と呼ばれる事業所や進学先に挑み、内定・合格した。本校生の強みは目的意識の高さである。生半可な気持ちで就職・進学をさせないという3年生の学年団をはじめとした先生方のご指導の賜である。その指導に従い、確固たる目標を持ち進路先を決定し、それに向かって生徒たちは必死に努力していた。 反面、早期からの指導がまだまだ十分とは言えない。進路説明会(進路ガイダンス)やホームルーム活動が各学年毎に実施され個々に充実しているが、積み上げられたものとして出来上がっていない。キャリア教育課主導で計画・実施することによって、本校生徒の実情に合った系統立てた3年間の進路指導が展開されると思われる。来年度から実施できることを願う。 さらに、受験への基礎学力強化に向け、検討中である数学マナトレの学習時間の活用方法を再度見直さなければならぬ。生徒が学びやすく効果の上がるものに変えていく必要がある。	○本年度の3年生も難関に挑み高い評価を得ている。担任を中心とした面接等を通じたきめ細やかな指導の成果であると思う。 ○進路指導がうまくいっているのは、生徒が先生方を信頼していることの証ではないか。 ○進路の決定は、生徒の将来に関する重要なことなので、生徒が実現可能な方策を身につけさせる実践が大切である。	○系統立てた進路指導を展開していくことが来年度の課題である。キャリア教育課主導での年次計画を立て、学年の協力を得、成果を見ながら進路指導を構築していく必要がある。 ○来年から農業科だけの学校として、また学校の規模が小さくなり教員数が減少する。しかし、進路事務の手間は同様に煩雑である。本来の進路指導である出口の保障がしっかりできるよう生徒の学力の支援、受験指導等が十分に行われる組織作りの改革が必要である。
		活動計画 (1)個人・三者面談等を積極的に企画。3学年団との協力を密にする。 (2)面談の結果から進路指導の基礎資料を作成する。 (3)定期的に進路希望調査を行う。 (4)効果的な面接方法についての資料提供等を行う。 (5)3年間の系統的なホームルーム活動を実施する。 (6)効果的な進路説明会を学年団と検討する。 (7)従来からの関係事業所同様、新規事業所への開拓にも力を入れる。 (8)公務員模試・適性検査等を実施し進路意識を高める。 (9)マナトレ学習帳を各自使用し、個々の学習進度に応じたトレーニングに励ませる。 (10)適切な時期に適切な話をしていただけの講師を探し、生徒の心に訴えるような講演会を企画する。	活動計画の実施状況 (1)3学年担任が積極的に面談計画を立て生徒理解と指導に努めた。 (2)個人面談の結果を表に就職開拓・企業訪問に役立てた。 (3)3年生は随時。1・2年生は2回。 (4)実施できず。 (5)各学年毎に展開し効果的なホームルーム活動を実施しているが系統的なものではない。 (6)外部業者に委託し、資料・内容も充実。生徒が満足できた。 (7)ハローワーク、課内の人的資産を介し新規開拓、求人・雇用2件。 (8)公務員模試4回のべ9名受験。 3年生→SPI, 職適, 常識, クレリン 2年生→職適検査 1年生→適学・適職ナビ (9)個々に努力しているが改善必要。 (10)本年は、本校主導での講演会だけでなく、遠隔授業・県教委・商工会議所等の協力があり非常に充実していた。生徒が満足できた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
キャリア教育	(全校レベル) (1)特色ある農業教育の推進を図る。 (2)地域産業の担い手育成に関する地域連携を推進する。 (下位組織レベル) ①地域連携の推進を図る ②教職員の資質向上を図る ③資格取得の推進を図る ④農業クラブ活動の活性化を図る	評価指標 (1)課題研究成果の充実(4研究以上) (2)農業科授業研修の実施 年間3回 (3)学校開放講座参加者の満足度 (4)農業技術検定合格率 80%以上 (5)学校農業クラブでの成果 (6)地域と連携した取組の推進 (7)授業に対する生徒の満足度	評価指標の達成度 (1)特産品の開発と普及 4品目 (2)農業科授業研修の実施 年間3回 (3)学校開放講座参加者の満足度 (4)農業技術検定合格率 34.4% (5)学校農業クラブでの成果 (6)地域と連携した取組の推進 (7)授業に対する生徒の満足度	総合評価 B 科目「地域貢献」等を活用し、本校農業教育の特色の1つである地域と連携した取組を推進することにより、本校のみならず、地域の活性化につなげることができた。また、その取組において、関係団体とのネットワークを構築することにより、専門科目の深化・生徒の進路実現につながった。 また、地域の課題解決に向けた取組・研究は生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながり、本校教職員の資質も向上し、本校の強みとなっている。	○課題研究を充実させ、学校開放講座に生かして生徒の実践力向上に繋げてほしい。 ○箸蔵地域には熱心な指導者が多いので、どんどん活用してほしい。また、他地域から人呼び込もうとしている。そんな人たちとも生徒が交流できたら良いと思う。 ○農業教員の後継者をぜひ育ててほしい。 ○酒造りも10年目の節目となるので、何か新しい取組を考えてみてはどうか。 ○地域と連携した取組が数多くできていることは素晴らしい。今後も地域連携を通して生徒が自信を持って行動できる環境を作ることが大切である。
		活動計画 (1)-1ホンモロコ・ホンシメジの普及活動を推進する (1)-2サギソウの増殖活動を推進する (1)-3中山間地におけるイチゴの栽培研究 (2)教職員の資質向上を目的とした授業研修を実施する (3)学校開放講座の実施により、地域連携・開かれた学校作りを推進する (4)農業技術検定に対応した補習体制を構築する (5)生徒の意識の高揚を図り、学校農業クラブ活動を活性化する (6)科目「地域貢献」の適正な活動計画と内容の充実を図る。 (7)実習ノートを活用し、実習科目の充実を図る	活動計画の実施状況 (1) -1西部総合県民局、地元企業と連携し普及活動を実施。地域の課題と向き合い、6次産業化に向けた取組を展開できた。 (1) -2バイオテクノロジーに関する技術を地元保護団体に提供するなど、普及活動に努めることができた。 (1) -3大学・研究機関・地元企業と連携し、研究を推進することができた。 (2) 計画とおり実施し、教職員の資質向上につなげることができた。 (3) 参加者のニーズに対応した開放講座を実施することができた。 (4) 計画とおり補習を実施したが、合格率を上げることはできなかった。 (5) プロジェクト・意見発表で、四国大会に出場するなど一定の成果を収めることができた。 (6) 年間52回地域と連携した取組を実施することができた。 (7) 販売実習・開放講座等の取組を専門科目につなげることができた。		

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成28年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
キャリア教育	(全校レベル) (1)生徒一人一人の理解力と興味・関心に応じた授業の工夫により生徒の学習に対する意欲を高めると同時に社会に巣立つ人づくりを意識した学習を充実させる。 (下位組織レベル) (1)商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる (2)各種検定・資格の取得を積極的に推進する。 (3)実践的・体験的学習を充実させる (4)マナー教育を充実させる。	評価指標 (1)授業の中でマナー教育の充実を図る。 週1回以上 (2)授業評価による生徒の授業満足度 85%以上 (3)3年生の3種目以上1級検定合格率 50%以上 (4)販売実習の実施 5回以上 (5)競技会の全国大会出場 3大会	評価指標の達成度 (1)週1回以上実施 (2)授業評価による生徒の授業満足度 100% (3)3年生の3種目以上1級検定合格率 71.2% (4)販売実習の実施 5回 (5)競技会の全国大会出場 2大会 ワープロ団体 情報個人	評定 A A A A B 総合評価 B (所見) 3種目以上1級合格者は3年生14名中10名71.2%であった。昨年度と比較すると9名64.3%を1名7ポイント上回った。内訳は、5種目1名、4種目5名、3種目4名である。 各種競技会出場に向けても、左記のような優秀な成績を得ることができた。念願であったワープロ競技会団体佳良賞と2年連続個人佳良賞受賞は、高いレベルの受賞で県下でも高評価された。 情報ビジネス科最後の生徒たちは、こつこつ真面目に取り組む集団であった。卒業後も様々な場面で堂々と活躍して欲しい。	○生徒のやる気を起こさせて、全国大会にも出場する生徒を育ててくれ、卒業生としてうれしい限りである。 ○授業満足度が非常に高く、県大会団体8連覇や個人での素晴らしい成績を収め、十分な成果といえる。 ○学習意欲の高揚は生徒の学力向上にも連動するので大切にしてほしい。	○本校商業科は、本年度で終了する。この地域で根付いた商業教育が本校と池田高校辻高に引き継がれることを願う。
		活動計画 (1)オリエンテーションで生徒の意識を高め、効果的な指導を行う。特に事業所で必要とされる人材をつくるという意識を持って、本校最後の商業科における生徒づくりに励む。 (2)生徒の実態にあった授業を展開する。 (3)検定前補習や個別指導を適宜行う。 (4)校内販売所、東西祖谷での実習に伴う出店を計画・実行する。 (5)各種競技会に向けて選手の競技力向上を図る。	活動計画の実施状況 1) 年度当初のオリエンテーションだけでなく、生徒自らが、三好高校最後の商業科生という高い意識と自覚があり商業の行事等に意欲的に取り組み、先生方の期待に応えようと各自努力していた。 2) 習熟度別やT.Tの授業を展開することにより、きめ細かい指導が実施できた。 3) 3種目以上1級合格者は10名合格した。 4) 校内販売や東西祖谷出張販売は計画通り実施でき地域貢献に努めた。 5) <ワープロ競技会> 県大会 団体8連覇, 個人1位~3位, 正確賞 四国大会 団体2位, 個人2・3位, 正確賞 全国大会 団体佳良賞, 個人佳良賞 <情報処理競技会> 県大会 団体2位, 個人1位 → 全国大会へ <電卓競技会> 県大会 個人2位 四国大会 種目別競技 伝票算の部2位			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成28年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) (1)教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を高める (下位組織レベル) (1)小中学校へ情報発信(異校種間連携)を行う。 (2)地域社会との連携による諸行事に参加し学校の活性化に取り組む。 (3)学校Webページを活用して情報発信に努める。 (4)PTA活動の活性化に取り組む。	評価指標 (1)学校Webページの情報発信状況 年間50回以上	評価指標の達成度 (1)学校Webページの情報発信状況 年間70回	評定 総合評価 B	○生徒が学習活動を頑張っている姿の報道が数多くなされていることは素晴らしい。 ○体育祭でも保護者の歓声が響き、楓祭でも、多くの保護者の参加で大きな成果を上げられた。来校者の評価も非常に高い。 ○学校開放講座や楓祭等は地域社会の人々が毎年の楽しみとして期待している。生徒たちが育てた物や収穫した物を自信を持って販売している姿には感動する。
		(2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 20回以上	(2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 24回		
		(4)学校開放講座の参加者の満足度 100%	(4)学校開放講座の参加者の満足度 100%		
		(5)保護者の学校行事等への参加状況 年間100人以上	(5)保護者の学校行事等への参加状況 年間122人		
		活動計画 (1)担当者との連携を図る。 (2)-1幼稚園、小学校に食農教育の教材の提供を行う。 (2)-2地域の文化祭等の催し、行事に参加をして本校教育の理解を図る。 (3)楓祭において、販売・展示の充実を図る。 (4)体験入学、開放講座などを実施して本校教育への理解を図る。 (5)役員会等の活性化を図り、参加者の増加を進める。	活動の成果・課題 (1)PTA役員と情報を共有し、各種行事の活性化につなげることができた。 (2)-1幼稚園での食育教育、学校農場を利用しての芋掘り、クリ拾いなど本校と異校種の教育活動を融合することができた。 (2)-2地域のイベント等に積極的に参加し、販売・展示等とおして本校教育活動を広報できた。 (3)今年度は土曜開催となり、多くの来場があった。PTA一丸となっておもてなしができた。 (4)中学生体験入学を2回、開放講座を5日間実施し、本校教育活動の広報につなげることができた。 (5)PTA役員だけでなく、多くの保護者の方にご協力頂き、学校行事の活性化につなげることができた。	活断層により施設利用の変更等があったが、PTA役員の方々の熱心な取組により、楓祭・体育祭など充実した活動内容となった。 また、専門高校の特性を生かした地域連携活動など、新聞、テレビなど、メディアで報道された回数も多く、ホームページなどとあわせ、本校な活動を十分に発信することができた。 高校再編後も、三好高校の取組を継続できるように、検討して行きたい。	

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要